

厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）

総括研究報告書

臨床研修の到達目標・方略・評価等の見直しに向けた研究

2020年度改訂された医師臨床研修制度の遵守率を把握するためのインタビュー調査

研究代表者 福井 次矢 聖路加国際大学 専門職大学院 公衆衛生学研究科 客員教授

研究要旨：

本研究の目的は、令和2年（2020年）度から施行されている現行の医師臨床研修制度で定められている到達目標・方略・評価への遵守状況を把握し、課題を抽出することであり、全国の研修指導医を対象にインタビュー調査を行う。NPO法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）に登録している臨床研修病院や大学付属病院で臨床研修に従事している上級医・指導医を対象に、令和2年度から施行されている医師臨床研修制度の到達目標・方略・評価への遵守状況の確認を目的としてWeb面談によるインタビュー調査を行う。インタビュー調査では、最初に、ガイドを用いたパイロット調査を実施し、議事内容をテキストに起こし、その内容を可能な限り発言者に確認するメンバーチェック（member checking）を行う。その後、thematic codingを施し、キーワードを抽出し、キーワードの整理・比較検討を行う予定である。

研究分担者

大滝純司	東京医科大学 医学教育学分野 兼任教授
片岡仁美	岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 教授
高橋 理	聖路加国際大学 専門職大学院 公衆衛生学研究科 教授
高橋 誠	北海道大学 大学院医学研究院医学教育・国際交流推進センター 教授
高村昭輝	富山大学 学術研究部医学系 医学教育学講座 教授
野村英樹	金沢大学 付属病院 特任教授
前野哲博	筑波大学 医学医療系 教授
村岡 亮	国立国際医療研究センター 医学教育顧問
大出幸子	聖路加国際大学 専門職大学院 公衆衛生学研究科 教授
有岡宏子	聖路加国際大学 聖路加国際病院 部長
大谷典生	聖路加国際大学 聖路加国際病院 部長

研究協力者

森田貴子	聖路加国際大学 専門職大学院 公衆衛生学研究科 研究補助員
------	-------------------------------

A. 研究目的

平成16年（2004年）度から医師の臨床研修を必修とした現行の医師臨床研修制度は、概ね5年ごとに見直しが行われてきた。第3回目の見直しにあたって、2年間の研修終了までに研修医が到達すべき目標とそのための方略、評価方法等についても、医道審議会医師分科会医師臨床研修部会等での審議を経て、令和2年（2020年）度から、新たな到達目標・方略・評価が施行された。

今般の見直しでの具体的な変更箇所としては、到達目標が、A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）、B. 資質・能力、C. 基本的診療業務という3層構造になったこと、卒前医学教育モデル・コア・カリキュラムとの一貫性を意図したこと、経験すべき症候や経験すべき疾病・病態の数を減らしたこと、必須ローテーション診療科を当初の7診療科に加え一般外来の8診療科に増や

したこと等、多岐にわたる。

令和2年（2020年）度より開始された新たな臨床研修制度への遵守の状況を把握することは、令和6年（2024年）度から開始される医師の働き方改革を控え、臨床研修プログラムを改定する必要があるかどうかを判断する上でも非常に重要である。

本研究の目的は、令和2（2020年）年度から施行されている現行の到達目標・方略・評価への遵守状況を把握し課題を抽出することである。

B. 研究方法

現行の到達目標・方略・評価への遵守状況を把握し課題を抽出する目的で、（1）臨床指導医のインタビュー、（2）厚生労働省医政局医事課が2021年度末に実施した指導医アンケート調査の解析、を行う。

NPO 法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）に登録している臨床研修病院や大学付属病院に対して、JCEPを通して、参加依頼書（別表1）を用いて本研究の趣旨を説明し、インタビューを受けてもらえる上級医・指導医を募った。参加表明した上級医・指導医を対象に、現行の到達目標・方略・評価への遵守状況を知るためのインタビュー調査を、Web面談にて行う。指導医とは、厚生労働省指定医師の臨床研修に係る指導医講習会を受講済で、臨床研修医の指導的立場にある医師とした。

インタビューは、Web会議形式で行う。1施設から1名の上級医・指導医が参加し、1回あたり4～5人の指導医とファシリテーター1名、タイムキーパー1名の6～7名で実施する。インタビューの項目は、（1）令和2年（2020年）度に見直された到達目標について、（2）7診療科・一般外来を必修としたローテーションプログラムについて、（3）新たな評価法について、（4）次回（2025年を予定）の見直しに向けて、（5）地域医療研修について、意見を伺う（別表2）。また、一定の成果が得られるよう、インタビューガイドを作成した（別表2）。

インタビュー前に先立って、パイロット調査を実施し、インタビュー調査の流れを確認する。インタビュー調査の記録はテキストに起こし、可能な限りデータを発言者に確認するメンバーチェック（member checking）を実施し、その後、thematic codingを行ってキーワードを抽出し、キーワードの整理・比較検討を行う。

（2）2022年3月に実施した指導医アンケートに、①臨床研修制度が見直されたことを知っているかどうか、②新たな到達目標が適切かどうか、③一般外来での研修状況、④到達目標について指導したかどうか、⑤評価票の記載例、⑥プライマリ・ケア能力について、⑦地域医療研修について等を盛り込んだ。

（倫理面への配慮）

研究実施に先立ち、聖路加国際大学研究審査委員会で承認を得て、説明文書（別紙3）を用いて、文書で同意を得る。

C. 研究結果

次年度、指導医インタビューの結果と指導医アンケート調査の結果を報告する。

D. 考察

次年度、結果を吟味の上、考察を報告する。

E. 結論

次年度、結論を報告する。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表 該当なし
2. 学会発表 該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
該当なし
2. 実用新案登録
該当なし
3. その他
該当なし

別表 1 インタビュー調査へご協力案内書

臨床研修病院

医師臨床研修 ご担当者様

【厚生労働省科学研究】臨床研修指導医対象のインタビュー調査へご協力をお願い

この度、日頃、全国の臨床研修病院で、研修医の教育に従事されている指導医の先生方を対象にインタビューをさせて頂き、臨床研修の新たな到達目標・方略・評価、地域医療研修や働き方改革制度と臨床研修、臨床研修の目的や意義について議論する場を設けたいと思います。

本インタビューにおいて議論された内容を、厚労省科学研究班の報告書に記載し、次回の制度見直しに資する情報として役立てられる予定です。

尚、インタビューはZoomなどのWeb会議形式で実施いたします。1回あたり4～5名の指導医と、ファシリテーター1名、タイムキーパー1名の6～7名で実施いたします。記録のため録画し、分析が終わるまで一定期間保存いたしますが、録画は公開いたしません。些少ではございますが、インタビューにご参加いただいた先生方には、アマゾンギフトカードを謝礼としてお送りいたします。

指導医・研修医の先生方にご周知頂き、貴院にて、ご協力いただける先生がおられましたら、聖路加国際大学 公衆衛生大学院 kaken_rinsyo@slcn.ac.jp まで、ご連絡頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和3年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金(地域医療基盤開発)

『臨床研修の到達目標・方略・評価等の見直しに向けた研究』研究代表者 福井次矢

●ご協力をいただける場合●

以下のURL、またはQRコードからお申込みをお願いします。

↓

<https://www.jcep.jp/order/order/sllsi.html>

【お問合せ先】

令和3年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金(地域医療基盤開発)

『臨床研修の到達目標・方略・評価等の見直しに向けた研究』

聖路加国際大学 公衆衛生大学院

kaken_rinsyo@slcn.ac.jp



フォーカスグループ インタビューガイド (指導医)

参加者

- JCEP 参加病院から募った、全国の臨床研修病院に所属する指導医 4 名
- フォーカスグループインタビューファシリテーター 1 名 (分担研究者)
- タイムキーパー 1 名 (分担研究者/研究協力者)

導入

- ファシリテーター自己紹介(1分)
- タイムキーパー自己紹介(1分)
- 指導医自己紹介(1分 X 4名)
- ファシリテーター 進行説明 (2分)
 - 日常的に、臨床現場で研修医の指導に直接的に関わっている常勤医師で、研修制度や評価方法を熟知しかつ実際の臨床現場での指導と評価の入力も担当している先生方を対象としていること。
 - すでに登録時に同意書を文書で頂いていること。
 - 1)到達目標、2)研修医評価票、3)2025年度制度見直しについて、ディスカッションすること。
 - 所要時間は60分。謝礼としてAmazonギフト券1000円(金額確認中)お支払いすること。
 - Zoomで実施し記録と文字起こしのため録画するが、録画は外部には公開しないこと。

I. 令和2年(2020年)度に見直された到達目標について

1. 令和2年(2020年)度の臨床研修制度改訂を経て、わが国の臨床研修制度は、良い方向に見直されたと思いますか。ご意見をお聞かせください。
 (ファシリテーターの先生方へ：プロフェッショナルリズムを大きく扱い、アウトカム基盤型教育の枠組みへの移行を想定し、さらには卒前のモデル・コア・カリキュラムとの整合性に配慮した到達目標となっています)
 - ✓ 到達目標 A. 医師としての基本的価値観 (プロフェッショナルリズム) について
 - ✓ 到達目標 B. 資質・能力について
 - ✓ 到達目標 C. 基本的診療業務について

II. 7診療科・一般外来を必修としたローテーションプログラムについて

1. 診療科ローテーションについては、2004～2009年が7科必修(内科、外科、救急、小児科、産婦人科、精神科、地域医療)、2010年～2019年3科必修(内科、救急、地域医療)でしたが、令和2年(2020年)度より再度7科に戻し、加えて一般外来も必修とされました。この度、7科および一般外来が必修になったことについて、どのようにお考えでしょうか？

III. 新たな評価法について

1. 評価票 I、II、IIIの使い勝手はいかがでしょう？
 - ✓ 評価票 I-医師としての基本的価値観 (プロフェッショナルリズム)
 - ✓ 評価票 II-資質・能力 (レベルを跨いだチェック欄について等)
 - ✓ 評価票 III-基本的診療業務 (エピソード欄など)
2. 少なくとも年2回、研修医にフィードバックすることとなりましたが、令和2年(2020年)度に研修を開始し、令和4年(2022年)3月に研修を修了した研修医へのフィードバックは、過去2年間に何回行いましたでしょうか。フィードバック面接実施について、ご経験をお聞かせください。

IV. 次回（2025年を予定）の見直しに向けて

1. 見直した方がよいと思えますか。（そう思う、そう思わない、どちらでもない等）
2. 見直しが必要と思われる点について、ご意見をお聞かせください。

V. 地域医療研修について

1. 期間は適切と思われますか。
2. 200床以下の医療機関でなければならないとの制限について。

研究参加同意書

研究課題名「2020年度改訂された医師臨床研修制度の遵守率を把握するためのインタビュー調査」

令和3年度 厚生労働行政推進調査事業費 地域医療基盤開発推進研究事業「臨床研修の到達目標・方略・評価等の見直しに向けた研究」(班長：福井次矢)では、令和2年に、方略・評価方法を改訂した医師臨床制度が施行されたことを受けて、新プログラムの遵守状況を把握し、課題を抽出することを目的としたインタビュー調査を行います。本研究への参加は自由意思に基づき、参加されない場合や途中で同意撤回をなさる場合においても不利益な扱いを受けることはありません。本研究の実施にあたっては、聖路加国際病院研究倫理審査委員会の承認を得たうえで、研究機関の長の許可を受けています。

研究調査期間：研究機関の長による実施許可後 ～ 西暦 2023年 3月 31日
(データ収集は、研究機関の長による実施許可後～2022年12月末を予定)

① 研究の目的

2020年度に改訂された医師臨床研修制度の遵守率について調査・検討します

② 研究の対象

臨床研修病院や大学附属病院の指導医(常勤)の先生方

③ 調査方法

インタビュー調査の質的研究

- 1) 対象：1施設から指導医1名、計40施設 40人
- 2) 方法：オンライングループインタビュー
- 3) 1回あたり4～5人で実施

④ 研究への同意とその撤回について

本研究は、対象者の同意書への署名を以て開始されますが、研究が実施または継続されることに同意した場合であっても、撤回を希望する内容の特定が可能であれば、随時これを撤回することができます。尚、2022年12月末日にデータ収集がすべて終了したのちは、データは匿名化されるため、撤回が困難であります。

⑤ 研究対象者に生じる負担及び利益

負担：インタビューの回答に際し、約60分の時間拘束が生じ、通信料が発生します。

利益：本研究に参加することにより、対象者に直接的利益はありません。

⑥ 研究結果の公表と、研究に関する情報の開示

この研究で得られた結果は、厚生労働省科学研究班の報告書で公表され、その後、学会及び論文で公表することを予定しています。この研究に関して、研究計画や研究方法に関係する資料について知りたい場合は、個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外は回答できます。質問や情報開示に関する問い合わせ窓口は研究者連絡先とします。

⑦ 情報の保存と廃棄、個人情報の保護について

この研究で得られたデータは、研究終了5年後にはすべて廃棄します。その際も、個人情報が外部に漏れないよう十分に配慮します。収集されたデータは、聖路加国際大学公衆衛生大学院において厳重に管理され、研究班の研究協力者が統合的に分析し、厚生労働省の報告書に、臨床研修の遵守率や臨床研修の課題に関する研究結果を掲載しますが、個人が特定される内容が公表されることはありません。また現時点では計画されていなくても、将来このデータを利用して研究が行われる場合に二次利用をする可能性があります。こうした二次利用をする際は改めて研究倫

理審査委員会へ申請し、承認された場合のみ実施します。この調査では、データは匿名化された状態で分析が行われ、個人情報の取り扱いには十分に留意して行います。

⑧ 利益相反

本研究に関わる開示すべき利益相反はありません。

⑨ 謝礼について

本研究は参加者には、謝礼として 1000 円 Amazon ギフト券をお渡しします。

研究者連絡先：

令和 3 年度 厚生労働行政推進調査事業費 地域医療基盤開発推進研究事業「臨床研修の到達目標・方略・評価等の見直しに向けた研究」

研究責任者：大出幸子

研究分担者：高橋 理、森田 貴子

聖路加国際大学公衆衛生大学院

〒104-0045 東京都中央区築地3-6-2 大村進・美枝子記念

聖路加臨床学術センター5階

電話：03-5550-4101

上記を踏まえ、研究参加にご同意いただける場合は、下記の欄にご所属、氏名のご記入のうえ、下記のメールアドレスに送付をお願いいたします。

送付先のメールアドレス： sllsi@luke.ac.jp

同意日 年 月 日

ご所属 _____

お名前 _____

同意確認日 年 月 日

同意確認者